

助け愛 支え愛 励まし愛う ベストパートナー いっしょに目指そう男女共同参画社会

— 6月は男女共同参画推進月間です —

男女共同参画とは、「女性ならこうすべき」「男性ならこうすべき」というように、性別を理由としてその人の役割を決め付けられることなく、男女それぞれの特性を尊重する中で、男女が家庭生活や社会的な活動など様々な活動に対等に参画し、個性や能力を発揮し、かつ責任を分かち合うことによって、ともに豊かな人生を築くことです。

葦崎市男女共同参画推進委員会では、「輝いて ひらめいて 葦崎プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、様々な活動を行っております。

今月は推進月間にちなんで、平成21年度、地域のみなさまのご協力やご支援で行われた推進活動の一部や取り組みを、推進委員さんに報告していただきました。



公民館活動を通じての 男女共同参画の啓発 『模擬寄席を開催』

第25回葦崎地区生涯学習推進の集いが3月7日に葦崎市民会館において開催されました。葦崎地区では、男女共同参画の啓発活動の一環として「男女共同参画推進模擬寄席」を地区推進委員と住民有志が出演して行いました。

内容は、男女共同参画をテーマとした「ダジャレ川柳」「なぞ掛け問答」で、男女共同参画の現状や問題などを面白く風刺した川柳やなぞ掛け問答を行い、参加者に男女共同参画の必要性や重要性などを説明しました。会場の300名の聴衆は、熱心に聞き入り、男女共同参画について理解と関心を深めました。

葦崎地区



穂坂町



ワーク・ライフ・ バランスを考える

2月14日、巡回公民館開催時に、男女共同参画推進のためのビデオ上映を行いました。テーマは「ワーク・ライフ・バランスを知っていますか？ ～働くオトコたちの声～」です。

当日は、働く世代の参加が少なかつたので、ビデオで紹介される働き方や働く環境等が自分の現役の頃とはずいぶん変わってきていると驚かれた方が多かつたようです。

今回は、推進テーマの一つである「ワーク・ライフ・バランス」の取り組みの現状や大切さを考えていただきましたが、男女共同参画社会の現実には、たくさん問題解決が必要です。これを機に、更に理解を深め、協力と共に応援をいただくことが推進の大きな力になると思います。

男女共同参画を知ってもらおう

平成21年度は、二つのことに取り組ましました。11月21日、町の食改推主催の男性料理教室に参加しました。鮭のホイル焼きを含む6品目に挑戦し、今まで目玉焼き位しか作れませんでした。が、レパートリーが広がり、後日、妻に作ってあげて大変喜ばれました。

そして、3月7日開催の中田町文化祭において、親子三世代の会話を発表しました。三地区から男女各二人ずつ出演してもらいました。内容は、退職した夫は、今まで仕事一筋で、地域の役員もせず食事も作れません。そのため妻は「主人在宅症候群」（ここが一番うけました）という病気になる、夫が料理教室へ行くという物語で、参加の皆さんの笑いを誘いました。少しは、家庭での男女のあり方・役割を考えていただく一助になったかなと思います。

中田町



円野町

知っていますか？
ドメスティックバイオレンス

3月7日に恒例の「円野町生涯学習フェスティバル」がつぶらの会館にて開催されました。園児の遊戯、立志式、文化講演、フォークダンス、日舞等々盛り沢山の内容で、多くの町民が参加して楽しい一日を過ごしました。

男女共同参画推進委員会では「知っていますか？ ドメスティックバイオレンス」(DV)というテーマで参加し、寸劇を交えてDVについて説明しました。出演した役者さんの熱演もあり、参加者は興味深く聞いてくれました。「DVは繰り返され、暴力を振った後に優しくなった状態がDVサイクルのハネムーン期と言います」との説明に、「なるほどね」「ああ、そういうもんかね」などと、うなずきながら聴いている方が何人もいて、理解を深めることができました。



ラジオなぞ賭け問答に見る
男女共同参画

11月3日、「穴山町生涯学習推進の集い・福祉と文化祭り」が開催されました。その中で「ラジオなぞ賭け問答に見る男女共同参画」と題して、各地区より代表の方にご協力をいただき、模擬寄席形式で発表しました。川柳に込められた日常でのぼやきやなぞ賭け問答に共感と笑いをいただき、男女共同参画社会を考える良いきっかけとなりました。

今後とも地域の皆さんと共に活動の輪を広げ、一人ひとりの意識と行動の変化へとつなげていきたいと思えます。

穴山町



清哲町

「笑い」の中で育くまれる
「男女共同参画」

3月7日、清哲会館で行われた「第25回生涯学習推進の集い・第36回文化と福祉のまつり」において、男女共同参画推進の時間を頂き、発表しました。

テレビでおなじみの「笑点」の音楽に合わせて参加者が登場。日頃の家庭生活において又、夫婦間の「男女共同参画への気つき」を川柳で発表していくパフォーマンスは、「男女共同参画」という言葉や内容を知っていただくとても良い内容だと思えました。

協力して頂いた皆様の個性溢れる表現力に会場は笑いで包まれ、「今年も楽しかったよ」と、見て下さった方から感想を頂きました。参加者の皆様と共に、より一層理解を深める良い機会になったのではないかと思います。



竜岡町

男（ひと）と女（ひと）とが
共に力を出し合って元気な
竜岡のまちをつくろう

2月20日竜岡公民館において、生涯学習推進のつどいが開催されました。その事業の中で、多くの時間を男女共同参画推進にあて「男（ひと）と女（ひと）とが共に力を出し合って元気な竜岡のまちをつくろう」をテーマに「ラジオなぞ賭け問答に見る男女共同参画」を模擬寄席形式で行いました。司会は（当時）推進委員の横内と標が務めました。

浅川正次先生に指導していただきながら、参加者全員が主役となり、川柳・なぞ賭けに挑戦し、その後山梨県人権擁護委員の浅川末子氏から世論の動向などのお話がありました。また、各家庭においての常日頃の会話などについて参加者が現実を打ち明け、笑いのなか時の経つのも忘れた楽しい推進のつどいでした。

男女共同参画推進委員の
退任にあたって

過日、私の近くで元校長先生の方同士で雑談をしているのを何気なく聞いていましたところ、次のようなことを言っていました。

「男女を区別しちゃいけないとは言っても、やはり生徒を男女で把握せざるをえませんよね。」「そうではないという困った問題も発生するしね。」

男女の違いを認めず、服装まで同じにするのが男女共同参画かのように主張する人たちがいました。しかし、現在では、男女の本来備わっている特性は認めようという解釈に政府の公式見解がなされています。その結果、ジェンダーフリーという言葉も男女共同参画からは消えることになりました。

したがって、こういった先生方の悩みというのは、現在では解消されていると思うのですが、いまだにそれを気にしなければならぬほど御苦労されていたのかと痛感しました。

人間一人一人はみんな個性という違いを持っています。当然、男女にもそれぞれ特性があって良いはずです。男性という個性と女性という個性は尊重されるべきだと思います。

ただ、気をつけなければいけないのは、個性と言っても人それぞれなのです。例えば、男性の中にも肉食系も草食系もその中間もいるように、

一様ではないのです。男だから女だからという区分で、赤か白かというように気をつけたいですね。

私たちは、憲法のもとでは能力や個性に関わらず、みな同等の権利を保障されていますが、それは男女という違いにおいても同様です。男だからダメ、女だからダメという決め付け方をして、人の人権を束縛してはいけないということです。

今まで、慣習として男女で住み分けていた分野に、無理強いではなく、ごく自然に自由に相互乗り入れをして、社会をもっと活力あるものにしていこうというのが、男女共同参画だどご理解いただきたいと思えます。6年間委員をさせていただきましたが、一歩前進と実感できる程にはいかなかったような気がします。市民の皆様は、繰り返し繰り返しPRする地道な活動が今後必要となることでしょうか。

故 藤巻 勝志さん

藤巻さんは、平成16年から3期6年推進委員（平成20年から2年間は委員長）をお務めになり、今年3月退任されました。この記事は、4月にご逝去される前にお寄せいただいたものです。氏のこれまでの尽力に改めて敬意を表するとともに、推進活動に対する熱い思いを、今後の男女共同参画推進活動に継承していきたいと思えます。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

具体的地域活動への転換

現在韮崎市は、二代目の男女共同参画計画を推進して8年目に入っています。当市の男女共同参画推進委員会は、公民館や生涯学習の中で活動を積極的に展開し、それなりの成果をあげてきました。しかしながら、二年ごとに委員全員が入れ替わると、月に一度の推進委員会の会議では、新委員が男女共同参画を理解するのに一力年かかることもあり、これまでに以上の成果は難しい状況にありました。そこで前年度の委員会より、約半数の委員が残留できるよう、委員の改選時期の見直しについて、市長へ提言がありました。このことにより、今までの意識啓発を中心とした推進活動から、地域における具体的テーマを捉え、それを家庭や職場で連携させていく活動が展開できます。つまり、テーマシティにらさきに相応しい、男女共同参画の推進が考えられ、それを次期計画に継承させることができます。

最後に、男女共同参画推進に熱心に取り組まれました前推進委員長藤巻勝志氏が急逝されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



向山建生さん
韮崎市男女共同参画
アドバイザー・
山梨大学客員教授